

研修員's VOICE

Vol. 35

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

出典:外務省HP



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

17 パートナリシップで
目標を達成しよう



2020年10月31日20時にボリビアと日本をZoomで接続し開催する
「世界ウチナンチュの日」のイベントでも司会をする予定の長嶺さん

氏名: 長嶺 勉さん

国名: ボリビア多民族国

コース名: 日系社会研修 沖縄ルーツの再認識を通して
学ぶソフトパワー活用と地域活性

研修期間: 2018年12月2日 ~ 2018年12月22日

ボリビアの沖縄県人会

日本の裏側、南アメリカ中部にあるボリビアには、推定1万4千人の日系人がおり、うち約7千人が沖縄県系移民と言われています。私の父母は沖縄戦後のボリビア1次移民で、私は日系2世です。沖縄県人会はコロンビア・オキナワと呼ばれる移住地で、毎年運動会や豊年祭など様々な活動をしています。今年は新型コロナの影響で、9月の敬老会は初のZoom開催となり、私は司会として参加しました。

現在の日系社会は、団結力や日本語(沖縄方言)、日本文化が失われつつあるというのが各国共通の課題ですが、ボリビアの場合、我々2世、3世が日本語を話せるが故、逆に日本への関心が低いのではないかと分析しています。



2020年9月にZoomで開催されたオンライン敬老会



2018年の世界のウチナンチュの日に行われた
島唄カラオケ大会で司会をする長嶺さん(右)

ウチナンチュネットワークを活かして

JICA沖縄での研修終了後、ボリビアで沖縄のソフトパワーを広めるのはもちろん、移住地をいかに観光資源として活かせるかを考えています。研修コースの間とは連絡を取り合い、昨年是一年活動が盛んなペルーの仲間を訪ね、刺激を受けました。以前、WUB*ブラジルの方ともビジネスの縁がありましたが、ネットワークがあるとビジネス以外にもプラスのことが多々あります。新型コロナの影響で2022年に延期された「世界のウチナンチュ大会」ですが、(コロナ禍の今)それまで生きてぜひ参加し、世界中から集まったウチナンチュと交流を深めたいです。

*WUB(世界ウチナンチュビジネスネットワーク)

首里城再建への期待

これまで5回日本へ行きましたが、その都度、沖縄も訪れます。きれいな海も魅力的ですが、ボリビアと似た環境のため、とても過ごしやすいです。首里城はこれまで3回訪れましたが、昨年、ニュースで燃える首里城を見たときは、まるで映画のワンシーンのように感じました。NHKの番組で沖縄のオバーの悲しむ顔を見て、すごく胸が痛くなり、沖縄戦で辛い経験をした私の祖母を思い出しました。

琉球王国は日本や中国、東南アジアとの中継拠点と聞いたので、首里城はもっと活気があった場所では、と想像します。再建の際には、王国時代の衣装を着たマネキンを外庭に置くなど、更に工夫のある首里城を期待します。



2018年 研修で訪れた首里城にて

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。